

2016年3月期 第2四半期 決算説明会



平成27年12月1日

目次(本日の内容)

- I. 2016年3月期 第2四半期連結決算業績 P 3 ~ P11
- II. 2016年3月期 連結決算業績予想と展望 P12 ~ P18
- 参考資料 (会社案内・製品資料) P19 ~ P30

I. 2016年3月期 第2四半期決算概要

2016年3月期 第2四半期 業績概要

(単位：百万円・%)

	連 結					単 体		
	FY14上期 (a)	FY15上期		前年同期比 増 減 (c-a)	計画比 増 減 (c-b)	FY14上期 (d)	FY15上期 (e)	前年同期比 増 減 (e-d)
		計画値 (b)	実績 (c)					
売上高	9,685	9,660	9,698	+12 (0.1)	+38 (+0.4)	7,159	7,256	+97 (1.4)
営業利益	546	450	264	△282 (△51.6)	△186 (△41.3)	511	263	△248 (△48.5)
営業利益率	5.6	4.7	2.7	△2.9pt	△2.0pt	7.2	3.6	△3.6pt
経常利益	596	470	297	△298 (△50.1)	△173 (△36.8)	596	299	△296 (△49.8)
当期純利益	363	260	195	△167 (△46.2)	△65 (△25.0)	373	199	△173 (△46.6)

<サマリー>

- ①連結売上高は、景気回復の期待感に支えられて加工食品用の調味料が増収となったが、機能食品は引き続き厳しい市場環境の中で減収となったほか、水産物のOEM加工が減少し、合計で前期比+12百万円(+0.1%)の増収となった。
- ②連結営業利益は、生産の効率化に取り組んだものの、円安による原材料価格の上昇や動力費の増加などの影響があり、更に株価下落に伴う退職給付費用が増加したこともあり、営業利益額が前期比△282百万円(△51.6%)減となり、営業利益率も5.6%⇒2.7%と△2.9ptと大幅ダウン。
- ③連結経常利益は、為替差益が差損に転じたことなどにより前期比△298百万円(△50.1%)減となった。
- ④連結四半期純利益は、前期に発生した損害賠償金が無かったことから前期比△167百万円(△46.2%)減となった。

2016年3月期 第2四半期業績 〈対前年同期比〉

(単位：百万円)

F Y 14 上期
営業利益 546

＜単体＞
営業利益
前年同期比
△248

前年同期比
△282

△232 ← 原価要因

+24 ← 売価要因

+14 ← 数量要因

△54 ← 販管費の増加

子会社営業利益の減少 → △34

F Y 15 上期
営業利益 264

セグメント別 売上高・営業利益

<セグメント別売上高・営業利益>

(単位：百万円)

	FY14上期		FY15上期				前年同期比 増減		上期計画比 増減	
	売上高	営業利益	計画値		実績		売上高	営業利益	売上高	営業利益
			売上高	営業利益	売上高	営業利益				
調味料	4,179	517	4,152	662	4,431	302	+251	△215	+279	△360
機能食品	2,866	299	2,971	226	2,748	245	△117	△54	△223	+19
水産物	2,002	25	1,992	3	1,894	△1	△107	△26	△98	△4
その他	637	38	545	△98	622	38	△14	△0	+77	+136
全社	-	△334	-	△303	-	△319	-	+15	-	△16
合計	9,685	546	9,660	490	9,698	264	+12	△282	+38	△226

※売上高は外部顧客に対する売上。

<サマリー>

- ①調味料は、液体調味料が堅調に推移し、粉体調味料が具材製品の大幅な伸長、CVD製品の受注増などにより+6.0%増収。営業利益は掛川工場の減価償却負担と動力費の増加が重く、更に粉体調味料の一部低採算製品の受注が伸長したことなどにて△41.7%減益。
- ②機能食品は、健康食品市場の競争激化に伴う減収、低採算につき9月末で撤退した医療栄養食の受注が増加したことが影響し、売上高が△4.1%減に落ち着いたものの、営業利益は△18.2%減益。
- ③水産物は、海外（韓国）輸出が回復し、カツオ加工が増加したものの、OEM受託加工が大幅減となり、売上高は前期比△5.4%減収。営業損失は物量の減少に伴う役務収入の減少もあり、前期比トントン。
- ④その他は、通販を含むその他商品類の販売で、売上高は前期比△2.3%減収、営業利益も△0.6%減益。

調味料

<調味料の売上構成>

(単位：百万円)

	F Y 14 上期	F Y 15上期		前年同期比 増 減	上期計画比 増 減
		計画値	実績		
液体調味料	1,609	1,673	1,688	+79	+15
粉体調味料	2,347	2,353	2,544	+196	+191
香辛料	222	126	198	△24	+72
売上高 合計	4,179	4,152	4,431	+251	+279
営業利益 合計	517	662	302	△215	△360
営業利益率	12.4%	15.9%	6.8%	△5.6pt	△9.1pt

※売上高は外部顧客に対する売上

<サマリー>

(売上高)

- ・液体調味料では、水産系エキスが堅調に受注増となり売上高は+79百万円増収。
- ・粉体調味料では、具材製品の大幅な増収とCVD製品の受注増により売上高+196百万円増収。
- ・香辛料は、9月末にて品目整理を行った影響で△24百万円減収。

(営業利益)

掛川工場の減価償却負担と動力費の増加、伸長した具材製品の一部が低採算であった事に加え、株価下落に伴う退職給付費用の増加も重なり、営業利益率が12.4%⇒6.8%に悪化。

機能食品

<機能食品の売上構成>

(単位：百万円)

<参考：素材別売上構成>

(単位：百万円、%)

	FY14 上期	FY15上期		前年 同期比 増減	上期 計画比 増減
		計画値	実績		
機能性食品素材	1,246	1,273	1,117	△128	△156
機能食品	599	581	577	△22	△4
医療栄養食	1,020	1,117	1,054	+33	△63
売上高 合計	2,866	2,971	2,748	△117	△223
営業利益 合計	299	226	245	△54	+19
営業利益率	10.5%	7.6%	8.9%	△1.5pt	1.3pt

	FY14 上期	FY15 上期	前期比
グルコサミン類	1,340	1,101	△238 (△17.8)
うちNAG	1,183	1,003	△179 (△15.2)
コラーゲン類	174	145	△29 (△16.8)
アンセリン類	71	165	+94 (+132.7)
その他	259	282	+23 (+9.0)
機能性食品素材 ・機能性食品 合算合計	1,845	1,694	△150 (△8.2)

※売上高は外部顧客に対する売上。

<サマリー>

(売上高)

- 機能性食品素材は、アンセリンが順調に受注増となっているものの、主力のN-アセチルグルコサミンの苦戦が大きく前期比△128百万円減収。
- 機能食品は、UMIウエル初めのNAG販売は微減ながら、受託製品の終了などにより前期比△22百万円減収。
- 医療栄養食は9月末の生産終了に伴う在庫調整用のOEM生産量が増加し売上は前期比+33百万円増収。

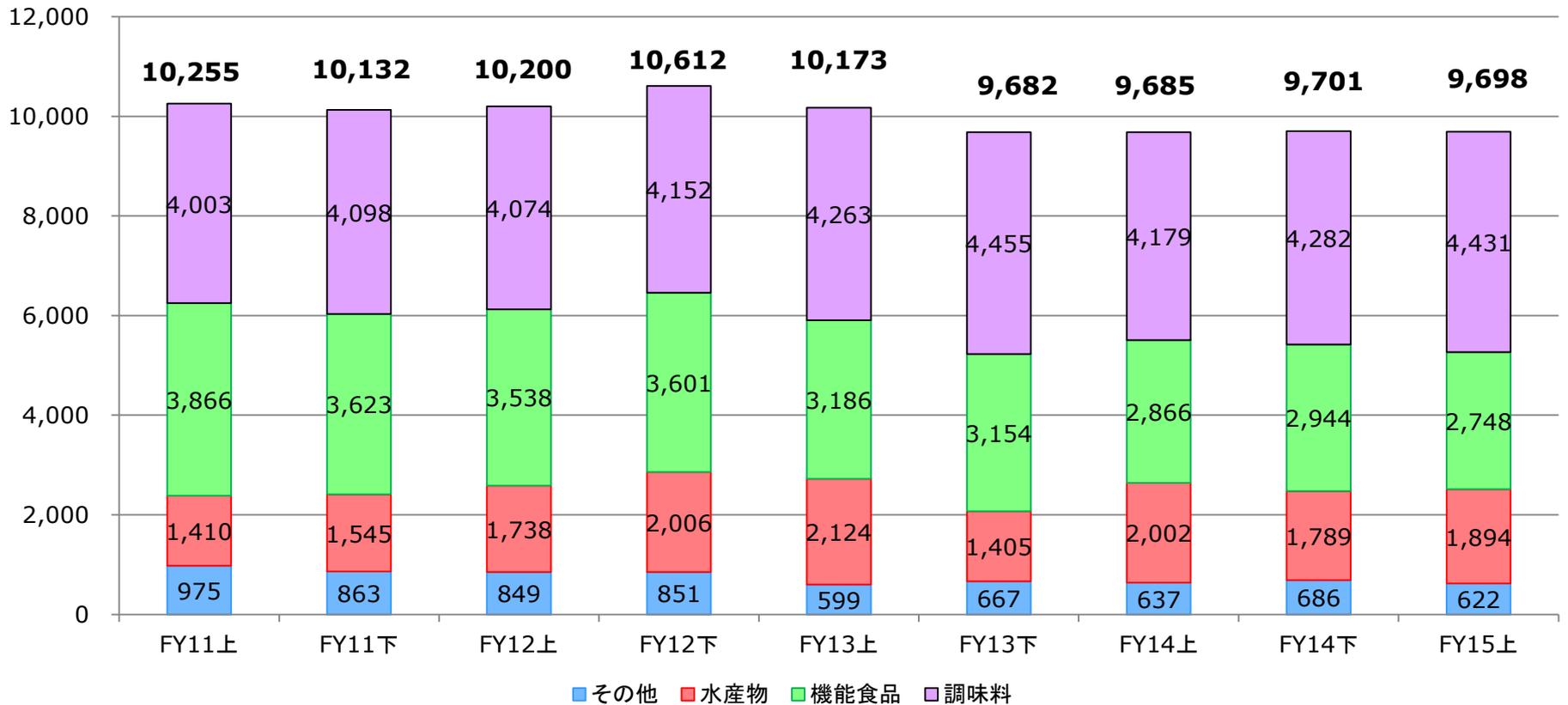
(営業利益)

- 減収が響き、営業利益は△54百万円減、営業利益率は10.5%⇒8.9%に悪化。

売上高の半期推移

半期毎の売上高

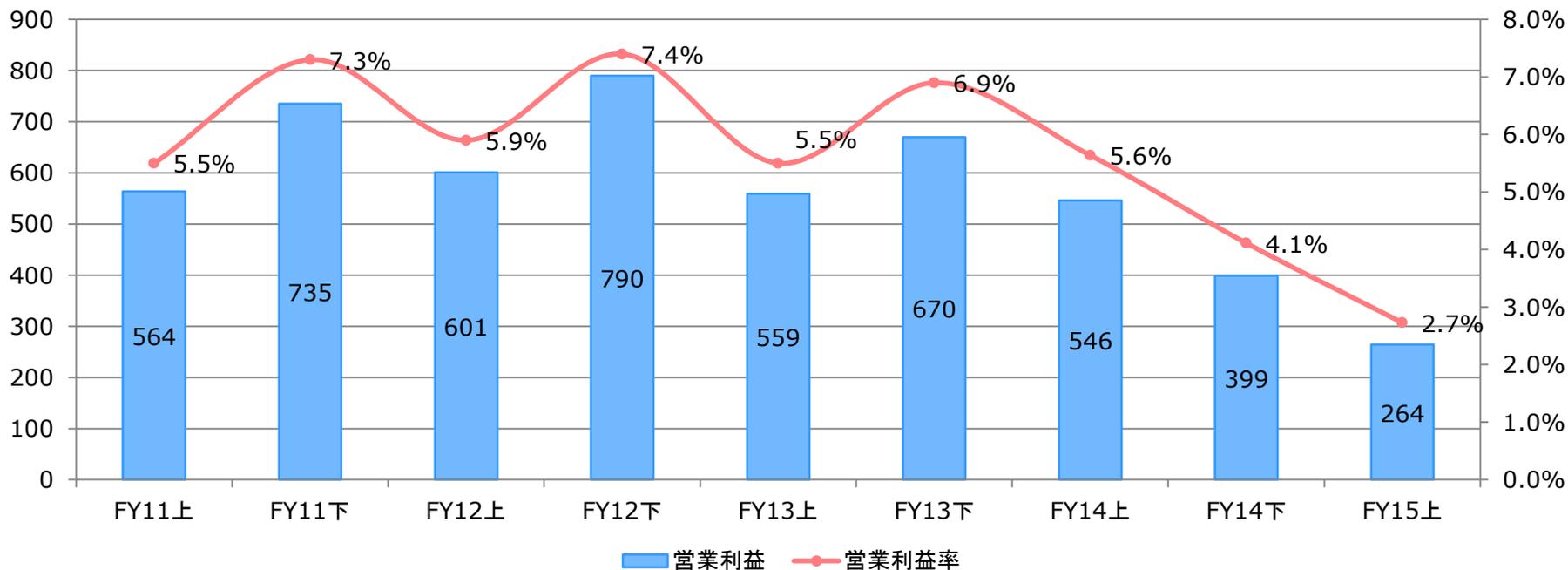
(単位:百万円)



営業利益の半期推移

半期毎の営業利益

(単位:百万円)



連結貸借対照表

(単位：百万円)

		2015年3月末	2015年9月末	増 減	主 な 内 容
資 産 の 部	流動資産	12,763	12,757	△5	受取手形・売掛金+254、たな卸資産+159 現金及び預金△224
	固定資産	12,192	11,649	△542	建物及び構築物△118、機械装置及び運搬具△260、 投資有価証券△205
	資産合計	24,955	24,407	△548	
負 債 ・ 資 本 の 部	流動負債	4,063	3,788	△275	未払法人税等△212、支払手形及び買掛金△216
	固定負債	1,695	1,529	△166	長期借入金△100、退職給付引当金△66
	純資産	19,196	19,090	△106	その他有価証券評価差額金△141
	負債・純資産合計	24,955	24,407	△548	

II. 2016年3月期業績予想と今後の展望

2016年3月期 連結業績予想（概要）

（単位：百万円・％）

	2015年3月期			2016年3月期（予想）						
	上期	下期	通期	上期		前年同期比 （実績）	下期計画 （修正）	前年同期比 （計画）	通期計画 （修正）	前年同期比 （計画）
				計画	実績					
連結売上高	9,685	9,701	19,386	9,660	9,698	+12 (+0.1)	8,732	△969 (△10.0)	18,430	△956 (△4.9)
営業利益	546	399	945	450	264	△282 (△51.6)	436	+37 (+9.3)	700	△245 (△25.9)
経常利益	596	460	1,056	470	297	△298 (△50.1)	563	+103 (+22.4)	860	△196 (△18.6)
当期純利益	363	317	680	260	195	△167 (△46.2)	335	+18 (+5.7)	530	△150 (△22.1)

<サマリー>

- （1） 売上高は、調味料の増収が機能食品の減収を補い期初計画を上回ったものの、下期は撤退した医療栄養食分の減収と香辛料の品目整理など、計画通りの減収を見込み、通期では期初計画の確保を見込む。
- （2） 営業利益は、前期までの原材料と燃料・動力費高に係る値上げの取り組みが遅れ気味であり、更に円安による原材料高と上期の動力費増加が好転には至らない見込につき、①高採算商品の拡販、②生産効率の改善、③経費削減は継続するものの、期初計画を下方修正した。

2016年3月期 連結業績予想 (セグメント別売上高)

(単位：百万円)

	2015年3月期			2016年3月期 (予想)						
	上期	下期	通期	上期		前年同期比 (実績)	下期計画 (修正)	前年同期比 (計画)	通期計画 (修正)	前年同期比 (計画)
				計画	実績					
調味料	4,179	4,282	8,461	4,152	4,431	+251	4,392	+110	8,824	+363
液体	1,609	1,703	3,312	1,673	1,688	+79	1,705	+2	3,393	+81
粉体	2,347	2,395	4,742	2,353	2,544	+196	2,597	+202	5,142	+400
香辛料	222	183	405	126	198	△24	90	△93	289	△116
機能食品	2,866	2,944	5,810	2,971	2,748	△117	2,040	△905	4,788	△1,022
機能性食品素材	1,246	1,281	2,527	1,273	1,117	△128	1,184	△97	2,302	△225
機能食品	599	587	1,186	581	577	△22	671	+84	1,248	+62
医療栄養食	1,020	1,076	2,096	1,117	1,054	+33	185	△891	1,238	△858
水産物	2,002	1,789	3,791	1,992	1,894	△107	1,689	△100	3,584	△207
その他	637	686	1,323	545	622	△14	611	△75	1,234	△89
合計	9,685	9,701	19,386	9,660	9,698	+12	8,732	△969	18,430	△956

- ①調味料は、香辛料を主とした品目整理の推進により、上期の伸長率維持は困難な見通しも、通期では増収の見込み。
- ②機能食品は、医療栄養食の撤退と、引き続き機能性食品素材の主力であるN-アセチルグルサミンの減収が尾を引く見込で、アンセリンの増収でも追いつかず、大幅減収の見込み。
- ③水産物は、OEM受託加工の増加と役務収入の挽回に取り組むものの、上期減収分は補えない見込み。

2016年3月期 連結業績予想 (セグメント別営業利益)

(単位：百万円)

	2015年3月期			2016年3月期 (予想)						
	上期	下期	通期	上期		前年同期比 (実績)	下期計画 (修正)	前年同期比 (計画)	通期計画 (修正)	前年同期比 (計画)
				計画	実績					
調味料	517	291	808	622	302	△215	332	+41	634	△174
機能食品	299	286	585	226	245	△54	243	△43	488	△97
水産物	25	△2	23	3	△1	△26	23	+25	22	△1
その他	38	34	72	△98	38	△0	38	+4	76	+4
全社	△334	△210	△544	△303	△319	+15	△200	+10	△520	+24
合計	546	399	945	450	264	△282	436	+37	700	△245

第57期『YSK 再興戦略の推進状況』①

～「選択と集中」による収益基盤の再構築～

1.事業構造改革の実施

・医療栄養食事業の撤退

平成27年9月末生産終了

上期売上高：1,054百万円（昨年度売上高2,096百万円）

大東第3工場の賃貸契約、一部社員出向、受取賃借料を計上

・香辛料事業の撤退

平成27年9月末生産終了

上期売上高：198百万円（昨年度売上高405百万円）

一部高採算商品の外注化による粗利アップ。工場売却へ

・他2工場の閉鎖、売却・賃貸

榛原工場の残る2製品 12月末生産終了、工場売却へ

吉田工場の設備売却、土地・建物を賃貸

・掛川新工場への集約

平成28年4月以降、調味料事業の集約化による生産性の向上

2.収益重視の営業推進

(1)製品値上げによる粗利向上に注力中

- ・為替・相場変動による原材料費アップ製品
- ・赤字ないし薄利製品

(2)新売価基準の設定による厳格な採算性管理

(3)開発センターの営業本部への取り込みによる営業力強化

3.新規事業領域（「B to C」市場）の進展

(1)「働く女性研究所」WEB通販の本格稼働

- ・ブランディングに向けた広告宣伝費 上期100百万円、リピーター獲得に注力
- ・「うるるん肌ドリンク」が機能性表示を取得

(2)ノンフード製品(アグリ分野)の拡充

- ・「低分子量キチン」「きちんとみの～る」のエビデンスを県などと共同取得中
- ・各種試験結果を基に、販売実績化へ

(3)高級ドリップ式「出汁」飲料の上市模索(来年の株主優待品へ)

4.Only One、差別化商品開発・上市の継続

(1)機能性関連

- ・機能性表示への対応
 - － NAG：トクホ用作用機序データ活用による関節炎訴求
 - － アンセリン：尿酸値低下に向けた技術論文公表へ、抗疲労訴求も検討
- ・アンセリン 売上高2.3倍増、スペイン産原料ソース確保拡販
- ・テアフラビンの上市、メタボ、口内細菌で県立大とヒト試験、ノロウイルスへの応用

(2)調味料関連

- ・呈味強化エキス調味料「ETシリーズ」（鰹節・昆布・煮干）の発売
- ・高濃度和風だし「風味の雫」に次ぐ乳酸菌調味料の上市
- ・CVD(連続式真空乾燥機)による粉末調味料の牽引 (粗利 +89%)

5.海外第2拠点の確立

- (1)シンガポール政府系 テマセクセンターとの共同開発
着手～抗酸化性鯉節エキス、ハラル対応NAG等
- (2)東南アジアでの販売・生産拠点の探索、継続
- (3)協力パートナーとの「タイフェックス」(来年5月)への商品展示

6.攻めのガバナンスとROE

- (1)6月 監査等委員会設置会社へ移行 (社外取締役 3名)
- (2)YSKガバナンス報告書の策定(11月6日公表)
- (3)ROE向上への分子・分母対策